



今月号の内容

- お会式の意義(1面)
- 沙弥校参加者感想文(2面)
- 日蓮大聖人の歩まれた道・よろこび佛教語解説(3面)
- よろこび法話(4面)

平成23年(2011年)11月1日(火) 11月号

発行所 〒873-0002 大分県杵築市南杵築1539番地 妙経寺内

日蓮宗霊断師会

会 長 新聞 智雄  
 日蓮宗霊断師会事務局  
 電話 0978-62-3570  
 FAX 0978-62-3571  
 編集人 松本 恵昌  
 購読料 1部 105円  
 毎月1回1日発行  
 日蓮宗霊断師会ホームページ  
<http://www.yorokobi-reidanshikai.jp>  
 よろこび投稿メール  
[yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp](mailto:yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp)



お会式の意義  
臨終の奇跡を今に伝える

日蓮大聖人の御入滅法要(お会式)が、全国各寺院でこの時期行われます。本年は第七三〇回目であり、その意義を総合研究所長・齊藤朋久所長にご解説頂いた。

日蓮宗霊断師会 総合研究所長 齊藤 朋 久

日蓮大聖人の御生涯

日蓮大聖人は貞応元年(一二二二年)安房国(千葉県)小湊で誕生され、日本国の平和と繁栄を実現するため、清澄寺で出家得度され、比叡山や高野山などで研鑽を深め、「法華経こそ、釈尊のお心を伝え、お題目こそ釈尊の魂魄そのものであり、現実には人を救いこの世を浄土とするものである」との確信に達しました。

法華経・お題目の精神による国家の再生(浄土化)を説く「立正安国論」をたびたび幕府に進献しましたが、それによって、かえって数々の迫害を受けました。しかし、日蓮大聖人は末法の私たち人類を救うために広宣流布にいのちを捧げられ、大難四箇度小難数知れずの一生を過ごされました。

弘安五年(一二八二年)六十一才の大聖人はいよいよ病氣平癒することあらずと覚られ、臨終にさいして山深き身延山にあつては、参集の者も不便であり、手狭なことを思召(おぼしめ)され、九月八日に身延山を出発され、重き病の身をあえて諸人参集に都合の良い池上宗仲邸に赴かれたと推察されます。九月十八日に、大聖人は池上邸に入られると、ただちに病床に着かれたのであります。

**立正安国の教え**

立正安国の教えは、自分だけがよければよいという個人主義的な信仰ではありません。自分だけの幸福を願うのではなく、人類皆ともに幸福であることによつて自分も幸福であるとする教えです。法華経の信仰、そして宗祖大聖人の仰せられた立正安国の信仰は、人類一人一人がお題目の信仰の下、手をつなぎあい心を通わす道なのです。立正安国の教えとは、実にスケール



龍口法難(りゅうこうほうなん)

が、九月二十五日、病身をおして、弟子達に立正安国論の講義をせられたのであります。文応元年七月、精魂をこめて書かれた立正安国論を、ご臨終の前に更に詳しく説き給うたのであります。

大聖人の御生涯は、立正安国論に始まり立正安国論に終わったと言えましょう。全生命をうち込まれて日本国と人々の平安のために生きたのです。宗祖大聖人の門下である私たちは、この立正安国の教えと精神をよく理解し、実践しなければなりません。

ルのおおきな信仰であり、祈り、悟り、行いの三大秘法の実践による、国全体を救い、個人も救う、総和の救いそのものであります。即ち、まず国家の平安を第一目標に祈り、自らの心に浄土を現し、現実にそれを行うことによつて娑婆浄土を実現するものであります。

『汝早く信仰の寸心を改めて速かに実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三界は皆佛国なり。佛国其れ衰へんや。十方は悉く宝土なり。宝土何ぞ壊れんや。国に衰微無く土に破壊(はえ)無くば身は是安全に、心は是禪定ならん』(立正安国論)

大聖人は、私たちの信仰の方向を改めなさいと仰せです。私たちの信仰の自分だけの救いを願う狭い考えと方向を変えて、実乗即ち法華経の説き示す大いなる総和の成佛、人類共栄の浄土建設に向かつて進みなさいと仰せです。現実世界に佛と浄土を顕すお題目を行ずる信仰の道の中に入りなさい。そうすれば理想世界はすぐ実現できると仰せです。

天変地異、内乱、他国の侵掠は、日本国民が正しい信仰によつて、正しい精神で思い行わないと起こる事柄です。私たちの心の状態が

**臨終の奇跡**

日蓮大聖人は、その生涯を通じて数々の神秘と奇蹟を現されましたが、つねづね、我が死すときは大地が震動すると仰せられたと伝えられています。ついに十三日辰の刻、地震がおこり、それを知らせとしておおくの弟子、信者がかけつけました。又この時、池上全山の桜は、悉く花を咲き開かせました。ご臨終もまた奇蹟に満ちていました。このため、今日でもお会式は桜で飾られます。

日蓮大聖人は、いつもお題目を唱え、お曼荼羅(俱生神月守)を心身に持つ人を俱生神様を通じて守ってくださいます。あなたも多くの災難や交通事故から守られ、人生に導きをいただいているはずで、大聖人は特に個人の幸せをお守りくださるだけでなく、日本の国を多くの災いから守り導かれています。

そんな日蓮大聖人に各菩提寺で心から感謝と祈りを捧げ、俱生神月守を多くの人にお勧めし、平和な日本の実現に努力いたしましょう。



牡丹餅供養(ばたもちくよう)

**津軽宇田山 閻法寺**

毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」  
 毎月 最終日曜日「盛運祈願会」

〒030-1403  
 青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2  
 TEL 0174-25-2712

住 職 工藤 堯幸  
 副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

**日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団**

妙正寺聖徒団 高瀬 次男

11月27日(日)午前9時  
 第8回清道衆信行講習会  
 東日本震災の体験をまじえての講義です  
 毎月1日午前10時「盛運祈願会」

**妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄**

〒071-1423  
 北海道上川郡東川町東町2丁目6-3  
 TEL 0166(82)2714  
 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび

**美濃乃國 常唱寺 聖徒団**

〒501-3734  
 岐阜県美濃市千畝町2738-2  
 TEL/FAX 0575(33)1430

本山 佐野 妙顕寺  
 日蓮大聖人御真骨奉安

齊藤日軌貫首著  
 「日蓮宗の戒壇、その現代的意義」  
 国書刊行会

CD「感謝百万遍陀羅尼」  
 CD「ないないブルース」

好評 発売中!

〒327-0843  
 栃木県佐野市堀米町264  
 TEL 0283-22-1524  
 FAX 0283-22-4194  
<http://www.sano-myoukenji.jp>

日蓮宗霊断師会会長  
 感通寺聖徒団団長  
**新聞 智雄**

〒162-0044  
 東京都新宿区喜久井町39  
 TEL 03-3209-8782  
 FAX 03-3208-7966

# 平成二十三年 八月二十二日〜二十五日 東京・感通寺で開催された 「沙弥校」参加者の感想文



愛媛県 法華寺  
讚岐 英尊  
(小学校五年)

ぼくは、二年ぶりに沙弥校にきました。どんな人が来るのか楽しみでした。今回集まったのは、ぼくをいれて8人です。

そして、開校式が終わって講習も終わってゆうご飯はとんかつでした。ゆうご飯を作ってくれたのは、光枝先生、緑先生、直子先生です。三人とも霊断師でびっくりしました。夜は、横からこわい話しが聞こえてきました。読経練習は「如らいじゆりょう品第十六」を最初から最後まで読みました。そのほかにおしゃかさまの一生や、日蓮さまの一生を講習で学びました。おふろは、近くのせん湯に行きました。

いちばん楽しかったのは、そうめん流しです。それといっしょにわさびの入ったおすしときんちやくがついてきました。

ほかにもしょしょうかいでおかしを食べたり、いろいろやりました。おとしと場所がちがつてびっくりしたけど、とても楽しかったです。



島根県 妙法寺  
新聞 信隆  
(小学校五年)

8月22日、感通寺でしゃみこうがありました。しゃみこうには、8人きました。1人は大人です。おふろはせんとうにいきました。さぬき君はたおるをわすれておこられたらしいです。そうめんがしは、たての

長さ六〇cmぐらいでちいさかったです。そうめんながしの中にめんをいれすぎるとまわらなくなっていました。おすしにはのりまきとかがありました。のりまきの中身は、わさびときゅうりと魚と米がはいっていました。たまごのおすしはとてもあまかったです。

つぎの日に、デイズニールランドにいきました。いちばんさいしょねるとき、げんしゅう君がこわいこわいといっていました。それでげんしゅう君に「わあ!!」といったら、ふとんからとびあがつてなきそうでした。こうしようせんせいみたいな人になりました。どつきようれんしゅうは、かなりきつかったです。16番目のおきようが一番だいじだとしました。

いっしょに読経練習をしました。合計で三回唱えました。大きな声で大きな口をあけて唱えました。唱えている最中に、虫さされがかゆくて、かゆくて大変でした。でも、唱えているうちにかゆみが止まったので良かったです。読経練習は声がおかしくなったりして大変だったけれど、みんなでやった楽しい思い出になりました。



青森県 道門寺  
飛鳥 島玄宗  
(小学校六年)

昼ご飯は、二日目は流しそうめんとお寿司でした。でも、流しそうめんは流すのがめんどくさかったので直で食べました。とてもお

いしかったです。お寿しはわさびがキツイのり巻きとたまごで、あなごでんぶと、れんこんとす飯でした。たまごの方はとてもおいしかったけれど、のり巻きは、からいらしいのでほかの友達にあげました。やっぱり休けいの時間が楽しかったです。



宮崎県 龍雲寺  
吉田 叡史  
(小学校六年)

ぼくは、二十二日から二十五日の三泊四日で沙弥校へ行きました。その沙弥校でぼくが思い出に残った事が三つあります。

一つ目は、日蓮様のお話です。阪口先生が、紙しばいやマジックなどでわかりやすく教えてくださいました。少し忘れていた所も、ふくしゅう出来たし、まだぼくが知らない事も教えてくださって、よく日蓮様の事がわかりました。

二つ目は、読きようです。新聞先生に教えていただきました。正座はしていなかったけど、しているぐらいきつかったです。でもそのかわりに、しっかりと読んだ如来寿量品第十六が少し言えるようになりました。もつと家でも少しづつ練習をして、お父さんや先生達みたいにしつかり暗記して言えるようになりたいです。

三つ目は、ふくはいです。いつも、おしゅうにんさん達が座っている所でふくはいをし、ふくはいは道場偈、三宝礼、奉送の三つがありました。ぼくは、一番三宝礼が難しかったです。三宝礼は、立ったり座ったりしたこと、道場偈があわさっていたので大変でした。今年の沙弥校は、いろいろ学ぶ事が出来てとてもいい四日間でした。



広島県 寿泉寺  
根師 宏明  
(中学校一年)

今回の八月二十二日〜二十五日の沙弥校

のどが痛くなった時もあつたけど、楽しいこともいろいろとありました。

ぼくは2回目ですが、三年ぶりなのでほとんど初めてどうぜんでした。でもひさしぶりの友だちやミニ流しそうめん、さらに銭湯、思い出に残るものがたくさんありました。

朝昼夜と作ってくれたごはんは、とてもおいしかったです。ありがとごさいました。

今回の沙弥校で一番きびしかったことは、大きな声でお経を読むことでした。二日目で、のどが痛くなりました。とてもきつかったです。

そして一番楽しかったことは、休憩時間です。五年生〜中二までの友だちと、なんやかんやとたくさん遊びました。夜ねる時は、こわい話をしたりしました。

今回の沙弥校で、読経練習や先生のお話を聞いたり、流しそうめんをしたり、デイズニールランドへいったり、いろいろ思い出に残りました。来年もきたいと思えます。



宮崎県 龍雲寺  
吉田 憲史  
(中学校一年)

今回の沙弥校は二年目ぶりです。三回目でした。三回目だけ慣れない事や初めてやる事がたくさんあつて、学ぶ事もたくさんありました。

まずは、そうじの仕方です。たたみの目にそってふいたり、家の中のはしからそうじしていたり、そうじの手順も正興先生からおそわりました。

次に、読経練習についてです。読経練習の先生は、新聞信應先生です。とてもきびしくて、

「もつと声を出して！」と大きな声で言われました。少しびっくりしたけど、大きな声を出してみんなで息を合せて唱える事が出来て、良かったです。そして、一番楽しみだったのは、夕勤の



島根県 妙法寺  
新聞 隆登  
(中学校二年)

後の夕飯です。夕勤でがんばってお経を唱えたのでお腹がとつてもすいていて、夕飯のしたくがてきばきと進みました。それに、がんばった後の夕飯は特別おいしかったです。

今回の沙弥校は人数が少なかったもので、一人一人とふれあう時間がたくさんあったので、みんなと仲良くなりました。そうゆう事から絆の大切さを学びました。やっぱり一人じゃさみしいし、何も出来ません。ぼくは、今回の沙弥校に来て良かったなあと思いました。

僕は、感通寺で行われる沙弥校に参加しました。友達となん年かぶりに会いました。一時半から始まった受付が終わると開校式が開かれました。さすがに正座だったので、足がしびれました。つらかったです。開校式の後の休憩が終わると教養で仏様の事を学びました。これで仏様の事が今までより、より多く分かりました。

初めての沙弥校の夜はおいしいトンカツを食べてから、みんなでのしく茶話会をしてすごしました。

二日目の二十三日は、庭の清掃から始まりました。みんなで協力して、庭をきれいにしました。

二日目、最初の修行は読経でした。一所懸命に口を開き、声を張りあげてがんばりました。のどがいたくなるところを先生がアメをもってきてくださいました。とてもうれしかったです。ありがたかったです。休憩が終わったら、教養、声明といろいろありましたが、がんばってのりきりました。

この沙弥校でいろんな事を学んだり、知ったのでとても自分のためになりました。友達とも会えたり、うれしかったので、また機会があつたら参加したいです。

# 第八回 よろこび 佛教語解説

総合研究所・霊研主任

新聞 信應

## 『六波羅蜜』

今月は『六波羅蜜』という語です。「ろつばらみつ」とも読みますが、私たちが迷いの世界(此岸)から悟りの世界(彼岸)に至るために、行わなければならない六つの修行の事です。言い換えれば、私たちが普段から心掛けないといけない、六つの行いという意味です。その行い(修行)とは、一、布施波羅蜜

- 二、持戒波羅蜜
- 三、忍辱波羅蜜
- 四、精進波羅蜜
- 五、禪定波羅蜜
- 六、智慧波羅蜜

の六つです。一つ一つの詳しいお話は来月からとしますが、その前にひとつ。法華三部経の一つ、開経である『無量義経』には「未だ六波羅蜜を修行する事を得ずと雖も六波羅蜜自然に在らせん」と説かれています。つまり、(無量義経の後に説かれる)『妙法蓮華経』の中には、六波羅蜜の功德が余す事無く包含されており、私たちは妙法蓮華経の五字を、お題目の七字として受持するだけで、自然に六つの修行全ての

功德を頂く事が出来るという意味です。私たちの唱えるお題目には、それだけの功德が込められているのです。では一つ一つの修行はいかなるものなのか、来月より詳しくご説明して参りましょう。



イラスト 小川けんいち

## 読者感想文

### 家族の幸せの源

東京都 中島 絵里(三十代)

いつも家族全員で「よろこび」を楽しく読んでおります。

先月号の「家業繁栄の道」は、関龍雄先生の書かれた法話を読み、お嫁さんとお姑さんがお題目の御利益により、最後は仲よく抱き合せて喜んだというお話に、お題目の有難みを感じました。私も最近お題目の有り難みをひしひしと感じる、今日この頃です。

私は幼い頃、家庭の諸事情で両親と離れ、祖父母に引き取られて育ちました。祖父は七十一歳まで私の学費を支払う為に働き、祖母は毎日のお弁当や食事作りと、本当に大切に守り育て

てくれて、そんな祖父母には感謝の気持ちしかありません。

この度七月に、主人と入籍を致し結婚する時に、私は「祖父母を置いては出ていけない!」と申し出たところ、「一緒に四人で暮らそう!」と言ってくれ、今は四人で暮らしております。

主人は、私にはもつたないくらい優しく、誠実で勤勉な人です。真つ直ぐで正直な夫はいつも私と向き合い、どんな時も、ねぎらいの言葉をかけてくれます。私はそんな夫と結婚して、この上ない幸せを感じて日々生活しております、すべての導きは日々唱えているお題目、身に着けていく月守りのおかげだと思っております。

祖父母は幼い頃から、「誕生日は親が子供のご機嫌をとり祝う日ではなく、子供がまた一つ歳を重ねた事を親に感謝する日だ

よ」と、教えられて育ちました。

今、改めてそのことを感じ、私を生んでくれた親と、育ててくれた祖父母に心から感謝しております。そして主人の両親にも、主人を生み育てて下さった事を心から感謝しております。

私が今こうして最高の幸せを感じながら生きていられるのは、日々のお題目の信仰と、御先祖様のご加護、そして両親・祖父母のおかげです。いつも私を深く愛し続けてくれる主人にも、感謝の気持ちで一杯です。

すべての幸せの源は、日々お唱えするお題目の御利益と思っております。これからも「よろこび」の記事に出てくる有り難いお話しを人生の指針として学び、このお守りを自分だけの幸せとしておくのではなく、他の人にも勧めていくことを自分の幸せとしたいと思っております。

# 第七回 日蓮大聖人の歩まれた道

ご幼少期(その一)

総合研究所 教学研究部長

小泉 輝泰

お誕生より幾年の月日が流れ、房州の美しい海と暖かい日差しの下、元気に育つ善日磨のお姿がありました。善日磨は・・・と書き進めて参りたいところではありますが、残念ながらお誕生と同じく、ご幼少期についてもその資料となるものは非常に乏しく、それは史実というよりは「言い伝え」の域を出ないものです。その中で、興味深いいくつかのエピソードをご紹介します。

れます。やはりご幼少期の資料には、このお寺の山史・伝記を当てるのがよさそうですね。

それらの伝記によれば、日蓮さまの父貫名次郎重忠には五人の子がいたとされています。つまり日蓮さまは五人兄弟であったということになります。その四番目が善日磨すなわち日蓮さまで、さらにその下には藤平(とうへい)という名の弟がいました(兄弟の名前のギャップが面白いですね)。現在でも近隣の地には「藤平(ふじひら)」姓をもつ方が少なくありませんが、その中には彼の「藤平(とうへい)」の子孫であると伝えられている方もいらっしゃるようです。

前回ご紹介した西蓮寺の山門前には、「日蓮大聖人十二歳マデ御養育之霊場」と記された堂々とした石塔が佇んでいます。十二歳といえば日蓮大聖人さまが清澄へ勉学に上がられるお年ですので、この石塔の文が真実だとすれば、おそらく物心つかれた時より清澄に至るまでの数年間、この場所を中心に過ごされたと思わ

さて、善日磨はこの五人兄弟の中でやんちゃに揉まれて育ったかと思えば、さにあらず、何と「乳母」がいらつしゃったというのです。乳母の名は雪女(ゆきめ)と称しまして、その出所は当地の有力者であった滝口三郎左衛門の娘といわれています。道善房は滝口家よりの申し出を大変喜んで、この娘にわざわざお給料を払って善日磨の乳母としました。

雪女は当時の田舎漁村としてはめずらしく大変な教養の持ち主であり、善日磨に対して村人たちが驚くほどのきびしい躾と教育を施しました。もちろん、その教育の場は道善房のお膝元、西蓮寺山内であったことでしょう。



後に日蓮さまが清澄へ上がることでできた理由は、実にこの雪女の負うところが大きいのではないのでしょうか。というのも、一介の

田舎漁師の子供が地元の名利である清澄寺へ勉学に上がるなど、並大抵のことはありません。もちろんその身分云々の謎は残りますが、それだけでなく読み書きも満足にできない者が、お寺での勉学を許されるとは到底思えません。十二歳のお年を迎える頃には、既に雪女によって十分な教養を身につけられていたものと思われま

現にご幼少期より高い教養を思わせるような、様々な軌跡も残されていますが、そのお話はまた後ほど。

イラスト 小川けんいち

## 俱生神月守・靈断法の二案内

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道のさきはよくは見えず、地図もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となつているかも知れない。人は誰もそれに気づかず「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩を前に愕然とする。

◆私たちが日蓮宗聖徒団には九識靈断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮大聖人のお教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指し示し目的地へと導いてくださいます。人事万般なんでもご相談ください。◆また聖徒団には俱生神月守という不可思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となつて護つて下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最寄りの聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

# よるこび法話

## 私たちが目指すべき「信心と成仏」

和歌山県 妙宣寺住職

あしだ えきょう  
蘆田 恵教



昨年、お会式後の法話で話されていたのですが、ある雑誌の医師・学者・ケアセンター院長などの対談で、「いい死に方」と「悪い死に方」について掲載されていたそうです。「いい死に方」とは「幸せな死に方」であり、それには世俗的な価値観から距離をおいてみる、死を見据える、今までとは違う生き方をしてみるのが良いとの事。また、菩提寺の無い方は供養をお願いしたいお寺を見つけて、このお寺に葬ってもらおうと安心を得るのだそうです。

現代社会では、身寄りが居ない方でも医療機関が最後を看取ってくれます。葬儀も葬儀社がしてくれまます。しかし、故人が遺骨になつてからは、弔って供養してくれる人が必要になります。

そして「悪い死に方」とは「惨めな死」のことであり、死後、自分の供養をしてくれない後継者が供養を怠るかもしれないという不安を持つ死に方だということです。たとえ家族や親族がいても、引き取り手の無い遺骨や忘れ物として届けられる遺骨が増えていくようにです。

死は必ず訪れます。死後の自分を考えるのに、早すぎる事はないのです。

昔、「大往生(永六輔さん)」という「死」をテーマに書かれた本の中に「いかに死ぬか」という事は、いかに生きるかということ。「死に様」とは生き様の事という言葉がありました。

日蓮大聖人も「妙法蓮華経御返事」という御遺文の中で「人の寿命は無常なり。出る息は入る息を待つ事なし。風の前の露、なお瞥えにあらざり、賢きも愚きも、老いたるも若きも定めなき習いなり。されば先ず、臨終の事を習うて後に他事を習うべし」と、どんな人でも死んでしまふ、だからどの様に死を迎えるか、また自分の死後の事をよく考え、どう生きなければいけないのか、どう生きるべきなのかを習わなければならぬと言われています。

この御遺文はご信者である妙法蓮華さんが、ご主人の臨終のさまを報告されたお手紙に対する御返事です。「主人は妙法蓮華経を夜も昼も唱えて、いよいよ臨終が近くなつたら二声声高に唱えました。そして最後は生きていた時よりも、安らかな顔でした」。

この報告に対して日蓮大聖人は、人の寿命の無常を風の吹く前の露に喩えられて、だからこそ先ず臨終の事をわきまえて、その後で他の事を学ぶべきであるとお示しになりました。

「法華経の名号を持つ過去世から悪業が変じて白業の大善となる。まして過去世からの善根はみな変じて金色になる」

また「あなたのご主人は臨終に際し南無妙法蓮華経をお唱えになられたのであるから、無始の悪業も変じて佛様の種となつたのです。煩惱即菩提、生死即涅槃、即身成佛という法門はこのことなのです。このような人と夫婦として縁を結ばれたのですから、あなたの女人成佛も疑いがないのですよ」と、この言葉は妙法蓮華さんにとって、この上ない救いになつた事でしょう。

法華経に「今の三界は皆是我が有なり、その中の衆生は悉く是れ我が子なり」と説かれてあります。この世界は佛様の大事な財産であり、生きとし生ける私たちは佛の子供であるのですから、佛の子として恥じない生き方、いい加減な毎日を送る事は出来ないでしょう。

この世において、受け難き人身を受け、会い難き妙法に出会えた私たちは、この限りある人生の中で絶対に果たさなくては行けない使命があります。それは各々の立場で南無妙法蓮華経の道を持ち、行い、護り、弘めることです。是こそが私たちが求めるべき「生き様」なのではないでしょうか。

南無妙法蓮華経の信仰を生活の基として、幸せな家庭を築いていけるように、共に歩んで参りましょう。

イラスト 小川けんいち



### 編集後記

俱生神月守を着帯する皆様の情報誌・教誌「よるこび」は、御陰様で部数も伸び、感謝の気持ちで一杯です。

さて先日、ラジオで「親切」という字は、なぜ「おやをきる」と書くのかとのクイズが出されていました。親不幸な字だなど思いつながら調べてみると、実はそうではなく、「親」が「身近に接する」という意味で、「切」には刃物をじかに当てるように「身近である」「行き届く」と言う深い意味があることを知りました。

「よるこび」もまた、この「親切」の字のごとくに、常に読者の皆様の身近にあることをめざして、これからも記事に籠めた熱い思いを届ける誌面作りを目指して、編集者一同、精進して参る所存です。

寒くなりました、読者の皆さま、くれぐれも体調を崩しませんよう！

### 霊断師各聖

日蓮宗霊断師会  
会長 新聞 智雄  
総局長 新建 光行

### 東日本巨大地震救援募金ご協力をお願い

合掌 晩秋の候 ご尊聖には為法為宗、ご精励の御事と存じます。3月11日、日本全土を震撼させた巨大地震とそれに伴う大津波が東北地方を中心に発生いたしました。被災地の中に多くの本会聖徒団や聖徒の方の家庭があることを思えば、この大惨事を他人事として考えるわけにはいかないと存じます。本会として、できる限り救援の手を差し伸べることが急務であります。そこで、本霊断師会では窓口として、救援募金の振込口座を開設致しました。お志がおありの方は、多少にかかわらず、下記宛に浄財をお送りいただければ幸甚に存じます。

記

再拝

●郵便振替口座  
「口座記号番号」 00190-3-358732  
「加入者名」 日蓮宗霊断師会総務局財務部  
救援募金担当 光枝 妙珠

東京都新島村本村3丁目1-4  
TEL 04992-5-0111  
FAX 04992-5-0111

**佛壇駒形屋**

〒070-0054 旭川市4条西5丁目2番3号  
TEL(0166)22-4643 FAX(0166)22-4672

代表取締役社長 駒形 貞洋

各種寺院用仏具取扱い・修復等もお問合せ下さい  
仏壇・仏具・数珠・線香・ローソク各種  
お仏壇クリーニング・修復も行ってあります  
お気軽にお問合せ下さい  
全国発送承ります

**砥森山 法華寺**

生きて救われの道場

住 職 阿部 是秀  
副住職 阿部 是真

〒028-0304  
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1  
電話 0198-67-3166  
FAX 0198-67-2227

**がんばれ日本!**

正立寺 妙法寺番神聖徒団  
団長 新聞 信應

毎月1日 午前10時 盛運祈願祭

お困り事はすぐ相談

神秘秘密の扉が開く時、必ず利益がいただける。

〒690-2404  
島根県雲南市三刀屋町三刀屋1169  
TEL 0854-45-3657  
FAX 0854-45-3666

**(株)伊藤家石材**

〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目  
TEL(0166)51-5017 FAX(0166)54-3272

お気軽にお問い合わせ下さい。

新規墓石建立・墓石のリフォーム・墓石の移転工事  
戒名刻字・各種墓石用品、取り扱いしております。  
御見積もりは無料です。お気軽にご相談下さい。

**Preserved Flower**

花の思い出を永遠に  
お葬儀・お盆・お彼岸・お彼岸・お彼岸

RE-K

〒070-0831 北海道旭川市旭町1条19丁目  
TEL 0166-51-5017 FAX 0166-51-5017